

北海道教区報

第541号

発行所

天理教北海道教務支庁

札幌市中央区南8条西11丁目

電話011(561)-1148

FAX011(561)-1190

E-mail:kyouku-h@vega.ocn.ne.jp

印刷

三浦印刷株式会社

ちば一条に心を寄せ おたすけに励もう

第97回北海道教区記念祭

台風が北海道から大きくそれて北寄りの秋らしい風が吹いた9月3日、教区記念祭が執り行



われた。奏楽の調べに合わせて着座。教区長は祭文で「ちば一条の心を持ってご恩報じに励んで、次代を育成する時句の声に添って勇み立つことをお誓い申し上げたい」と述べた。続いて座りづとめ・そして十二下りてをどりを教区役員、主事と支部長、婦人会役員でつとめた。夏の名残の暑さに少し汗ばむ陽気となった。

祭典後の挨拶に立った西垣教区長は、「今は元一日の信仰とちば一条の信仰を見つめる旬であり、そこで明るく元気に歩ま

立教180年10月26日夕づとめ後…

中山大亮様 布恵様 ご成婚 慶びの集い

東礼拝場前から

真東棟前広場までを会場に開催されます。

17時45分夕づとめ、18時45分頃ご入場から

20時頃まで、よろこびのプログラムが

企画されています。

せて頂くのが大事です。私達の目の前に現れてくるものには神様の思いがあつてのもので、天理があります。それには自分の思いの外のことで、思わしくない事も現れてくることだってあります。しかし私たちは、神様を信じてしっかりと神様を見つめて通ることが肝心です。私達の前には、道の先輩たちが導いてくれた道があります。

天災や人災もたくさんある昨今ですが、(北朝鮮のロケットが北海道付近を通ったこと) Jアラートが鳴って不安になったのですが、陽気ぐらしを世間に伝えていくこと、お道の人がやさしく相手の心を汲み、共に歩んでいく姿が、多くの人に広がってほしいと願います。殊に9月1日には、中山大亮様と布

恵(のぶえ)様のご結婚式、お祝いが晴天の中ありまして、喜ばせて頂きました。この11月には、二代真柱様の五十年祭がとめられるということで、それに合わせて天理図書館、参考館でも特別展が催されますので、たくさんの方々におちばにお帰り頂きたいと思えます」と述べられました。

次いで記念講演となり、保護司であり青少年の補導委託員として32年間つとめてこられた、東本所属・本導分教会長・大畑道雄先生が約1時間に亘って非行や犯罪を犯した子供の立ち直りの手助けをされてこられた様々な事例を挙げて、教会や地域の人のやさしさの中で、子供はたすけられると言うお話をされました。(2ページに要旨掲載)



北海道教区のホームページ <<http://tenrikyohk.wixsite.com/tenrikyo-hk>> 教区報がご覧頂けます。

「困ったらじいさんのところに来い」

— 補導委託員のおたすけ — 本導分教会長 (東本) ・ 大畑道雄先生

まず、先生の活動があるテレビ局が取材したDVDを鑑賞してから、講話が始まった。先生は社会に非行や犯罪が少なく

なつて、明るい社会にする活動を、教会をその場所として使い、保護司関係や里親、補導委託などの方々とお世話取りされてきた。77歳とは思えない、若々しいお姿で、次のように話されました。(講話の後、聴き足して加筆しました)



私は先の大戦で、父親を亡くしました。母は焼け野原の東京下町で、孤児たちを集めて世話をし、教会を守ってくださいま

と、400名を超え、40年が経っていました。

普段私は、裁判所や民生委員、保護司、道の教職員の方々と関わって、にいがけ、おたすけをしています。関わった不幸にして罪を犯した少年の中には、暴行、傷害、窃盗、シンナー、覚せい剤などをやった子や、コンクリート詰め殺人や、首を切ったり、奈良や鹿児島の子も預かりました。

私の所には、試験監察・補導監察の二つの関係から参ります。家族と一緒に寝起き、食事をし、外に働きに行きます。長くて6か月なんです。それも、私が頭を下げて、やっとなして来た働き口を、ケンカして3ヶ月ともたない。勤めたお金は全部貯金してあげてますが、やめてきちゃ困る。また探す。あ

画的だったのか、自動車に乗り換えて、逃走しました。付近はヘリコプターがバタバタ飛んで、ということもありました。

思春期の子供のおたすけは、「大きな耳、小さな口、優しい目」が大事です。大きな耳とは、相手の話をよく聞くということ

庭が崩壊しても、助け合いで家族を守っていくことができます。おさしづの中に、「夫婦の縁がなくても、互い互い兄弟という縁は結んでくれ」というおこ

ばがえりに行ったことのある女の子が通りました。「よ！しばらく。元気が。」と声をかけ、その次に、現代はフリーセックス

ある裁判で、委託員の私の家内に、裁判長が感想を求めたことがありました。すると家内が「寝食を共にして、家族中で、更生に力を入れてきました。

困るのは、女の子の方です。そこで「気を付けろ」と声をかけた。「本当に困ったら、じいちゃん

の力、アンテナを張って、見守る責任も大切な事です。次に、離婚の問題があります。当人同士ではどうにもならず、現

鎌倉にて

俱知安支部長 久保田英明

神奈川の大教会の月次祭に、夫婦で参拝することになった。私は祭典当番で、女房は婦人会の3日づつとめの当番に当たったため、この機会に何処かへ観光したら良いと、娘が費用を出してくれて、実に34年振りの夫婦での旅行となった。

立教180年 教区婦人会母親講座5ブロック開催報告					
ブロック	開催日時	講師	立場	会場	受講人数
A	8月29日(火) 12時~	窪田 りか	南山分教会長夫人	北斗市総合文化センターかなで	154名
B	8月31日(木) 13時~	村田 和香	所沢市分教会長夫人 天理教美術会員	教務支庁	191名
C	8月29日(火) 13時~	廣岡やよい	美唄分教会長夫人	上川分教会	81名
D	8月29日(火) 11時~	若狭 一廣	船東分教会長	西幣舞分教会	106名
E	8月29日(火) 10時~	可児 玉代	教区婦人会常任委員	稚内分教会	41名

「大昔から食いものを捨てる国民、助平の限りを尽くした国民は滅びました。ギリシャ、ローマの昔から王侯貴族だけが独占出来た贅沢です。」

それを百年に一回くらいずつ革命を起こし、人類は健康を保ってきたのです。ところが二十世紀末の現在、大衆が食いものを捨て、助平の限りを尽くして倒す人がいなくなりました。まるごと倒れるほかなくなりまし

た。」
これは一九九八年七月二日号の毎日新聞付特集ワイドの中で、作家の山本夏彦氏が書いていたコラムである。

私は興味深く感じ記録しておいた。今でも忘れないで私の頭の片隅には残っている。

人間は考え研究していく能力を創られた時から与えられている。それが年をかさねてみがかれ成長し、今日のような科学技術の発展をみて豊かな生活を送らせて頂くようになった。しかしそこに取り残されたものがある。それは誰もが心に持っているのほせる、欠点である。自分の頭脳にのほせる、お金のほせ、地位名誉にのほせる

て、人が共存していくための正しい筋道を忘れてしまうのである。自己中心の心がはびかると大切なものを忘れてしまうのである。

その原点は生かされている自覚である。私たちは、生かされている事に感謝し、この世は一切与えられているものと自覚して生活を慎み、たすけあうべき

『教理随想 十八』

負けるが勝

木岡 昭

だが多く尊い体験をさせて頂き喜び勇んでいた。その際いろんな訓話を書かれた冊子を頂いて帰ってきたが、その中に、苦労されて人だすけに励まれ、素晴らしい実績を残された先生の遺訓があった。

その一節に 「負けて通りなさい。人生は心が高いか低いかで決まる。」とあった。

私はそれを見て胸に深く刺されるものを感じた。通ってきた人ならではの言葉である。人生は終生勉強させられる、ありがたい。

勉強とか運動競技と違い一人一人の人生は皆違うので競争出来るものではない。ところが私達は、人生全般について人と見比べ競う。特に身の廻りの人に負ければ、かきむしるほど腹を立て、時には自分を見失う。しかし心の高い人は人々に軽蔑されるだけで、ただ自己満足しているだけである。よき運命は、低いところへ水が流れるように、低い心に向かって自然に流されていくのである。

過日、私の係娘 (外孫) が兵庫女子布教寮に一年間入寮し修業して帰ってきた。二十一才

これが、この世のすじみち (天理) に適う生き方である。

作っていた。祈祷料の表を見ると、高額であり、日常の生活で先行きに不安を思う人が多いと、私の目には映った。

それから、長谷寺に咲くアジサイを観に行つたが、1時間40分待ちの立て札があった。人には、素晴らしいと思う物に対して、待とうとするとする忍耐力がある。

そこからまた歩いた。途中で立ち寄った所に、「くにとこたちのみこと」と刻まれた石碑があり、思わず二人で合掌した。元の理は天理教が作り上げた宗教説話ではなく、人類が共有しなければならぬ真実の話なのだ、と改めて思った。

その日はとても暑く、歩いてると、額から汗が流れた。極楽寺の駅で、女房が「二人で分け合つて飲もう」と、自販機で水を買うことにした。120円を入ると、なんと二本出てきて、二人で顔を見合わせて、笑った。そして、お互い元気であることに感謝した。

それからまた江ノ電に乗り、江の島まで足を延ばしたが、さすがに、江の島神社までの石段は疲れが出て、きつかった。その夜はネットで探した二人で3800円のホテルに泊まった。娘

には、もつと良い所を取ればよかつたのと言われたが、断つた。

翌日は東京観光の名所・浅草寺へ出かけたが、こちらも変わらず大勢の人だった。格式張らずに、境内地に喫煙所もあり、犬の散歩も自由に許されている。その雰囲気は学ばねばならないと思つた。

日本人は宗教離れていると思つていたが、決してそうではない。この道のすばらしさを伝える努力が、私にはまだ足りないのだ。

都議選で、小池知事率いる「都民ファーストの会」が大躍進した時、政治不信の受け皿になつたと、報道された。先行き不安な人の心の受け皿に、全国の教会がなれたら、右肩下がりのお道とは言われないでしょう。

土地所の手本ひながたになることは、教会の使命です。この度の、かんろだいの節を、どう受け取るかは、私たちの心の自由によって任されています。

浅草の雷おこしを女房が土産に買い、久々に食べましたが、伝統ある土産が、現代風にアレンジされていました。信仰の世界も創意工夫が必要なのだと、今回の旅行で改めて思いました。

新会長さん紹介

(平成29年8月26日お運び)

旭川支部

旭一條分教会(北陸)

奉告祭29年10月1日(日)



武田年史氏 (68歳)

日高支部

三石分教会(亀岡)

奉告祭29年9月30日(土)



大脇直丸氏 (44歳)

函館支部

勢鳳分教会(南海)

奉告祭29年11月12日(日)



渡辺真穂氏 (40歳)

第4回地域のおたすけ研修会 子ども食堂の 進め方を学ぶ

8月30日、教務支庁を会場



に、天理教民生、児童委員連盟が、おたすけ研修会を催して、62名が受講。地域での子供の支援を学んだ。

今、家庭内で様々なことが起きてきている。児童虐待、引きこもり、老人の介護、離婚、母子・父子家庭など。その波の中で、子供が多くを語れず、一人寂しく、冷たいご飯を食べている。そんな光景を、一つでも

なくしたい。家庭でなくとも、居場所を作ってあげ、温かい食事を食べさせたい。そんな心持で「子ども食堂」は、広がろうとしています。

まず、平取の地域の会館で始めた、和田与志夫先生が、歩み始めの取り組みを紹介し、次に、昨年から鋭意活動している岡山の教会長夫人が、具体的に食堂の姿を話された。

実際に、「困っています」と手を挙げる人はいない、しかし、寂しさをこらえて、カップ麺をすすっている子はいらぬのだ。子ども食堂が、きっかけとなり、地域の支えあいの、助け合いの起点となるという研修であった。(子ども食堂開設のノウハウは、本部社会福祉課にお尋ねください)

まなびばin札幌

9月16日、17日教務支庁を会場に「まなびば」が開催された。講師には山本一元統北分教会長を迎えて、内容はグループワーク、お話し、おつとめ練習など。

〈所感〉
終始和気あいあいとした雰囲気、教えを学び合い、お話し



も真剣に聞いて、陽気ぐらしの実践を心に治められたように思う。

〈参加人数〉

学生合計22名(男子10名・女子12名) スタッフ15名 炊事係7名
学担 神野記

計報

- 坂本千枝子様 8月23日出直 (89歳)
- 沼貝分教会前会長夫人 (空知支部)
- 松下キミ子様 8月29日出直 (91歳)
- 北龍梁分教会前会長夫人 (天龍支部)

北海道教務支庁日誌抄

(8月19日～9月20日)

- 8月 19日 まなびばスタッフ研修会
- 19～20日 教区合唱団 練習日
- 21日 基礎講座教務支庁会場
講師 藤田美重子
(参加5名 総数 8372名)
- 26日 本部分次祭遙拝式
- 28～30日 災救援 平時訓練
- 30日 民生児童委員連盟
研修会
- 31日 婦人会母親講座
Bブロック
- 9月 2日 たすけ推進会議
支部長会議
- 3日 教務支庁合祀・慰霊祭
- 4日 教区記念祭
- 10日 任命願書発送
- 16～17日 事情願書発送
- 17日 まなびば
- 17日 教区長夕張大教会
120周年記念祭参拝



布教の家寮生、真柱様とご面談

20日 教区報編集会議